

牛久市教育委員会 10月定例会会議録

1. 日 時 平成28年10月24日(月)午後3時30分
2. 場 所 市役所本庁舎 第4・5会議室
3. 出席委員 染谷 郁夫・石井 美知夫・後藤 雅宣・五十嵐 登喜子
4. 委員以外
の出席者 教育部長 川井 聡
次長 飯野 喜行
次長 杉本 和也
指導課 課長 村松 美一
放課後対策課 課長 吉田 茂男
文化芸術課 課長 手賀 幸雄
生涯学習推進室 室長 横瀬 幸子
中央図書館 館長 関 達彦
スポーツ推進課 課長 齋藤 勇
教育総務課 課長 川真田 英行
教育総務課 課長補佐 富田 真幸
教育総務課 課長補佐 森田 明
教育総務課 課長補佐 高野 裕行
指導課 課長補佐 山口 明
文化芸術課 課長補佐 永沼 智子
生涯学習推進室 室長補佐 山越 義弘
スポーツ推進課 課長補佐 飯島 美博
スポーツ推進課 課長補佐 高橋 頼輝
牛久第一中学校 校長 大竹 薫
牛久小学校 校長 柴崎 卓也
岡田小学校 校長 宮田 充
中央図書館 司書 竹吉 優輔
5. 欠席者 委員 芦田 亜里香
教育総務課 課長補佐 戸塚 美幸
6. 会議録署名人 五十嵐 登喜子
7. 議 題 議案第36号 牛久市立図書館名誉館長に関する規則の制定について
議案第37号 牛久市立図書館名誉館長の称号授与について
諮問第 4号 牛久市教育支援委員会への諮問について
8. 協議事項 プールの改修について
第一幼稚園の位置について
ICT整備について

教育長	<p style="text-align: center;">(あ い さ つ)</p> <p>開会を宣言する。 会議録署名人 五十嵐 登喜子 委員を指名する。</p>
教育長	<p>それでは、議案第36号「牛久市立図書館名誉館長に関する規則の制定について」及び議案第37号「牛久市立図書館名誉館長の称号授与について」ですが、関連する案件ですので一括して事務局より説明をお願いいたします。</p>
中央図書館長	<p>それでは、議案第36号「牛久市立図書館名誉館長に関する規則の制定について」並びに議案第37号「牛久市立図書館名誉館長の称号の授与について」は関連がありますので、あわせて説明をさせていただきます。</p> <p>まず、議案第36号「牛久市立図書館名誉館長に関する規則の制定について」は、牛久市立図書館に勤務し特に功績のあった者に対して名誉館長の称号を授与し、その功績をたたえとともに、図書館行政の振興に寄与することを目的として制定するものです。称号が授与された名誉館長につきましては、図書館の運営に関する助言、市の要請に基づく諸行事への参加、市のイメージアップ等に協力をいただくことなど、教育行政のみならず牛久市の大使としての役割も期待するところでございます。</p> <p>続きまして、議案第37号「牛久市立図書館名誉館長の称号の授与について」であります。平成25年に『襲名犯』という小説で多くの大型作家を輩出した推理小説界の名門である第59回江戸川乱歩賞を受賞した牛久市立中央図書館に司書として勤務する竹吉優輔職員に名誉館長の称号を授与することについて、委員会の同意を求めるものであります。以上、ご審議をよろしく申し上げます。</p> <p>議案第36号・37号についての質疑を受けるが質疑なし。</p>
教育長	<p>それでは、議案第36号「牛久市立図書館名誉館長に関する規則の制定について」及び議案第37号「牛久市立図書館名誉館長の称号授与について」ですが、関連する案件ですので一括して賛成の委員は挙手をお願いします。</p> <p>出席委員全員の賛成を得る。</p>

教育長	<p>全会一致で決定しました。次に入る前に、竹吉職員から何か一言ありますか。</p>
竹吉司書	<p>牛久市の図書館の名誉館長という、本当に大変名誉ある称号をいただきましてありがとうございます。今後、私が作家として目指すことは、まず自分の名を上げて多くの読者の方をふやすことであり、そして図書館の名誉館長、そして司書として行うことも自分の名を上げて、牛久に竹吉あり、そして牛久に図書館ありということを日本中に知っていただきたいと思っております。微力ではありますが、全力を尽くしますのでよろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>ぜひ市のイメージアップをよろしく願います。次に、諮問第4号です。牛久市教育支援委員会への諮問についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項により、出席委員の3分の2以上の多数で議決したときこれを公開しないことができます。本議案につきましては、非公開にしたいと思いますが委員の皆様にお諮りします。非公開とすることに賛成の委員は挙手をお願いします。</p> <p>出席委員全員の挙手により非公開とすることに決定</p> <p>(非公開)</p>
教育長	<p>以上で非公開を解除します。</p>
教育長	<p>次に、協議事項についてですが、プールの改修について事務局より説明をお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>こちらについては、前回の7日の臨時会に引き続きの協議事項ですが、資料のほうは、小学校プール運営費ということで、A3版で横版の方をご覧いただきたいと思えます。</p> <p>プール改修についてということですが、中学校につきましてはご存じのように運動公園のプールに子供たちを送る形で運用をしているところです。小学校のプールの今後の改修についてということで、教育委員会の方針的なものがある程度固めたい、固める必要があるということで出させていただいたものです。と申しますのは、小学校のプールにつきましてはこちらの表にもありますように、ひたち野うしく小は別格ですが、それを除いては20年以上が1校、30年</p>

以上が3校、40年以上のものも3校あるという状況でございます。これらについてどういった形で改修をするのがいいのか、または運用方法で何とかできるのかというあたりの方針的なものを決めて予算要求に臨む必要があるのかなということで問題提起させていただきました。特にプールの運用期間というのはやはりどうしても梅雨明けの後から夏休みに入るまでということで、非常に限られた短い期間になってしまうのはやむを得ないところでございます。それに対して維持費ということで考えた場合に、塩素代とか水道代ということだけであればまだそれほどでもないのですが、やはり全体のイニシャルコストを減価償却的に割り振ってみますと、かなりの費用になるということが見てわかるところでございます。今後、改修に向けて順次老朽化したところの予算を要求していくということにあたっては、一旦は中学校で行っているようなプールの集約化も検討した上で教育委員会として小学校の運営方針はこのようにしたほうがいいかなということをお定めしておく必要があるのかなということで考えました。

今回、三つの方法を比較する形でこの表をつくっています。一つは、老朽化したプールを全て取り払って新たに設置するという形で改築という手法で行うもの。もう一つは、既設の老朽化したプールはそのままにしておいてコンクリートの土台を生かした上で、その上の水槽に上からステンレスなりFRPを重ねる形でリニューアルといった形でやった場合のもの。三つ目といたしましては、仮に全部のプールの集約というのは不可能ですので、例えば8校あるうちのプールを半分の4校としてバスで輸送する形で集約して運用するという三つの形態でのコスト比較をして表をつくってみました。

また、運用に当たってはやはりコストだけでは比較できない部分もあると考えられますので、現場の声を直接伺うために校長先生方にも今日同席いただきました。それで、こちらの表の内容について担当補佐のほうから詳細をご説明申し上げます。

教育総務課課長
補佐（森田）

小学校の運営費ということで過去10年間の経費を調査いたしました。プールにつきましては、牛久小学校・岡田小学校・奥野小学校については昭和40年代に、中根小・向台小・神谷小については昭和50年代につくられたプールとなっております。この6校については、もう30年以上経過し、国のほうの国庫補助等に定められている財産の処分年限30年を超えている状況です。このことからプールの今後の改築化または長寿命化対策またはバスの送迎によって使用できるプールのほうに送迎するというような今後の方針づけをしていかないとプールの事業の維持ができないかと考えられているところです。そういった目的で今後の整備方法としてプール改築ということで整備した場合約2億円、既存の建物を解体して新しく付属棟とプールをつくった場合2億円かかる、プールの本体のリニューアルのほうは、プールの本体のコンクリート部分だけを残

し、その上にFRPもしくはステンレスの水槽を設置して配管等を整備した場合
約5,000万円かかるというような業者の見積もりが出てきております。
もう1点がバスの送迎になります。こちらのほうは既存のプールで使用できる
学校の方への送迎ということになりますが、ひたち野うしく小の温水プールと
か下根の運動公園のプールの方を利用した場合、バスの送迎の費用が年間約3
20万円かかるというような試算でしております。プール改築と本体のリニュー
ールについては、プール改築のほうが40年使用できるもの、プールのリニュー
ールについては30年使用できるという形で、減価償却を割り出した感じ
ですけれども、その場合プール改築で年間700万円、リニューアルで370
万円という形になります。経費の比較からすれば、バスの送迎とリニューアル
についてはほぼ近いものがありますが、その前に現場の意見として十分聞き取
りの調査が必要と考えますので、本日牛久一中の大竹校長先生、牛久小学校の
柴崎校長先生、岡田小学校の宮田校長先生のほうのご出席をいただいて、ご意
見を伺った上で方向性のご審議をしていただければと思います。

教育長

大竹校長、お願いします。

大竹校長

この前、我々3人に加えて、神谷小の長谷川校長も含めて意見交換をしたの
ですが、その中で出た意見としましては、まずプール学習、水泳は必修領域です
ので絶対に小学校、中学校でやらないわけにはいかない。ただ、その時間数的に
は学校裁量というところもあって、年間10時間程度はやるようにということ
を文科省のほうから言われているわけで、それを実際に運用していくに当たっ
てこの問題が出てきたかと思うのです。やはり学校側としては、予算はかかる
かもしれないけれども、今の小学校のプールを継続してもらえればありがたい。
理由としては、中学校は今運動公園のプールを使って水泳学習を運用している
わけなのですが、やはりバスの送迎はあったにしても時間的なことを考えます
と2時間の学習をするために往復の時間も含めれば3時間程度中学生でもかか
るということで、さらに小学生となると着替えの時間、あるいはバスへの乗車
の危険性、バスから降りた後のプールまでの徒歩での危険性、そういうものを
考えると、やはり今の既存のプールを改築もしくはリニューアルという方向で
考えていただいたほうがよろしい。さらに、複数の学校が同一プールを使用し
ますと、やはり天気が大きく左右される学習でもありますので、今日ができな
かった、それでは今日やるはずの学校を明日というわけにはいなくなってい
まうのです。予定が込み入っておりますので、そういう時間的な不便さも出て
くるかなと思います。さらに、牛久の場合には他市町村に比べると一つの学校
の生徒数、児童数が多いので、なかなかプールの時間の運用がうまくできるか
なという疑問もあります。そういうことを含めて、できましたら改築もしくは

<p>柴崎校長</p>	<p>リニューアルということで校長間では話しをしたのですが、もし補足するところありましたらお願いします。</p> <p>つけ足しという形になるかと思うのですが、移動での時間ロスというのが非常にあり、授業時数の確保を教務主任を中心に年間を通じて非常に重要視してやっており、仮に10時間やらなくてはならないとすると、2時間行ってその時間を確保するのに5回行くわけです。そうしますと、その前後で2時間、1時間、1時間、仮に2時間とすると5日分で10時間ロスするわけです。10時間の授業時数というのは基本的に2日間です。2日間分の授業時数がロスするのは非常に問題だなと思っております。そうは言ってもお金がかかることですからどうしたらいいのかなと、前回ご説明いただいたときにやはり考えまして、そのときの発言は同じようなことを言っているのですけれども、やはりバス送迎が一番これでいくと安くなっています。バス代の高騰ということで適正なバス代を支払わなくてはいけなくなっている中で、それほどこのプールの本体とリニューアルの経費も差はあるわけですが、先ほど申し上げましたような移動時のロスとか年間の授業時数のことを考えたとき、学校側からしたら、ぜひプール本体リニューアルでお願いできないかなというのが、そのとき思いましてお話しさせていただいたことで、同じことを今日お話しさせていただきました。</p>
<p>教育長</p>	<p>一番老朽化の進んでいる岡田小学校の宮田校長先生、いかがでしょうか。</p>
<p>宮田校長</p>	<p>岡田小学校のプールは昭和42年にできたということで、多くの皆さんが「私が小学校時代にあったプールだね」と懐かしく見ていただきました。それで、今年本当に教育委員会の皆様にご無理をお願いしまして、運動公園のプールを使わせていただくように配慮していただきました。1学年が6時間使うということで、1回に2時間とるとということが精いっぱいだったと思います。中学校のほうはもう既に入っていますので、そこに予定を入れるということで、それが精一杯だったと思います。実際に2時間とって実質どのぐらい泳いだのかということを確認しますと、やはり高学年でも2時間とったとしても約60分程度しか泳げない。それから、低学年のほうに聞いたら、70分ぐらいは泳いだかなというふうに言ったので、「低学年は何で多いのか」と言ったら、結局教室で1時間前に着替えを全て済ませて行っていますので、実質出発してから帰って来るまでは2時間。それにプラス低学年の場合は1時間そのプールの準備の時間ということでやっているということなので、実際にプールでは高学年よりも若干多く泳げたというふうな実態がございます。それで、子供たちの評判は、岡田小のプールはプールサイドがちょっと歩くのにも危険なような状態ですので、</p>

	<p>「とてもきれいですごくよかった」というふうにして子供たちは喜んでおりました。ただ、そういう時間の部分で非常にロスがあるということ、それから1、2年生にとっては、ちょっとプールが深すぎて幼児用のプールを利用するには時間がかかり過ぎるので、ちょっと深くてやりづらいプールだったというふうなことの反省が出ております。そのようなことを考えますと、できれば学校のほうにプールがあってリニューアルなり改築なりしていただければ、子供たちのほうもプール学習を楽しく充実したものになるのではないのかなというふうに思いますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>教育長</p>	<p>現場の貴重なご意見ありがとうございます。現場のご意見を伺いまして、教育委員の皆様いかがでしょうか。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>同じ問題を既に過去遭遇している市は多いと思うのですがけれども、その前例として周辺の市はどんなふうにこの問題に対処してきたのか、事務方のほうで押さえていれば教えていただきたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>教育総務課長よろしく申し上げます。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>ちょっと詳しく調べていないのですが、こういった形で経常的な形で移動する例は余り聞いてはいないのですが、ただ今回いくつか新中学校の関係で視察に行った中ではプールがない学校もありました。何らかの形で市の施設に移動してやっている形なのかなということは推察しました。数年前までは結局プールは当然壊れれば直す、老朽化すれば直すという考え方で来ていたとは思いますが、二小なんかも改築したわけです。ただ、近年になってやっぱり行革の流れの中で中学校についてそういったバスで運動公園に集約するというをやっている中で、やはりいくつかの手法を検討する必要が出てきたのかなというふうに考えております。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>プールのない他の市、学校で年間10時間という必修をどんなふうにクリアしているのか、とても興味があります。必修にもかかわらず、やっていないような市もあるのでしょうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>ちょっとその把握はしていないのですが、ただそのプールの授業をやらなく</p>

<p>教育長</p>	<p>ていいということはないというふうにはお伺いしたので。何か別のものにかえられるということではないと思います。</p> <p>では次回までをお願いします。</p>
<p>後藤委員</p>	<p>つまり、プールが古くなったというのは、石岡や土浦とか古い町はもうこの問題に何年か前に当然遭遇していると思うのです。今現在どうしているのかを知りたい。校長先生方の現場の意見というのは全くそのとおりだと思うのです。現場の声としては当然のことだということになるので、一番一委員として懸念するのが、この後のICTの問題なんかもそうですけれども、教育にそんなにお金をかけられないよという判断をされたときに、何かは我慢したりしなければいけなくなってくるのが多分あります。それでなくてもお金がかかることになったわけですから。我々はその児童生徒のことだけを考えてただ叫べばいいのだという意見もあるかと思うのですけれども、現実的にそれが実現しないとすれば、やっぱり委員として無責任かなというふうには自分は感じる。叫んでも実現しなければしょうがないので、それを実現させるためにいろんなことを正確にしておきたいなというふうにはちょっと思ったのです。</p>
<p>石井職務代理者</p>	<p>私ももちろん後藤先生のおっしゃるとおりのところもあるのですが、あともう1点、今学校数、児童生徒数も相当な数ですので、いずれにせよ運動公園のプールだけで賄うことは不可能だろうと思う。いずれかにせよ学校でその10時間確保するためには、どれかしらは改修なり改築するなりという必要性は絶対に出てくるだろうと思う。その優先順位なりといったところでできるだけ現場に対して負担感のないような形で優先順位をつけて整備をしていく必要は出てくるのかなというふうには思います。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>確かにプールを送迎となると、安全面から考えても望ましいことではないと思います。あとは授業時間のそのちゃんとした1時間というのをきちっと授業できないというところでは、その体育の水泳の授業をやっていく時間数もほかより充実した授業ではないということになるので、授業面から考えれば確かにリニューアルか改築のほうがというのはあります。ただ、今先ほど後藤委員とかもいろいろな面でお金もかかるということもあるので、もうちょっとほかの情報も入れた上で検討していく必要がある。それはもう時間がないことなのだと思います。</p>

教育長	<p>近隣市町村の様子も伺いながら、「こうしましょう」という結論は次回の教育委員会議でも間に合うのでしょうか。一応今回はある程度方向を示したほうがいいのでしょうか。</p>
教育総務課長	<p>予算の要求ということであれば、期限はあります。</p>
教育長	<p>方向としては委員の方々は三つの中でどうでしょうか。予算ということにある程度考慮しながらも、現場第一で考えるととなるとリニューアルでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>リニューアルをまず検討して、リニューアルで賄い切れない、これはもう不可能となれば改築にいくしかないだろうとは思う。</p>
教育長	<p>現場の考えを受けた上で、一応今リニューアルという方向で私たちは考えていきたいと思いますという確認のお考えですので、そういう方向で進めていきたいと思えます。次回の委員会までに近隣市町村でプールのない学校の様子等も聞いていただければと思います。</p> <p>ここで竹吉名誉館長、各小学校長は退席</p>
教育長	<p>それでは、第一幼稚園の位置についてですが、これはできればこの委員会である程度決めたいと思っていますので、よろしく願います。</p>
教育総務課長	<p>こちらの協議事項についても一旦7日の臨時会のほうにも出させていただいた案件になります。7日の臨時会のほうで石神会長に出席をいただきまして、最終答申をこちらにありますようにいただいたところでございます。現在のこの最終答申の中には、位置云々ということに関しては中間答申と同じ表現を用いた形で、ひたち野うしく地区またはその周辺部という形である程度幅広の形で書き込むにとどまったところでございます。現在、第一幼稚園につきましては、中根小学校での児童数予測と、あと児童クラブについて来年4月当初に4教室が確保されるということを勘案すると、30年度までは何とか中根小での運営が可能になって、30年度中に建設をして31年4月1日には移転していないといけないといったスケジュールとなっております。協議会としまして、答申文の中には幅広な形でのうたい方なのですが、審議の中で私のほうからお願いしまして、あくまで参考意見ということでその第一幼稚園の位置について</p>

ご意見をくださいということで、委員の皆様へ申し上げて一人一人ご発言をいただきました。そちらのほうを再度になりますご紹介させていただきたいと思っております。

3ページの下から2つ目のところで私のほうから、答申とは別にあくまでも参考意見として第一幼稚園の位置決めが必要になるのでご意見いただきたいということで、委員の皆様へ振らせていただきました。それで出てきた意見といたしまして、5ページのあたりになります。まず上から3人目美尾委員、こちらは第一幼稚園のPTAになります。美尾委員のほうからは、保護者の中の感触として情報をいただいております。最初に第一幼稚園が中根小の敷地内に存続することが難しいという話が出たときに、やはり保護者の間で反発が出て、ここに何としてもなければという意見が最初のうちは出たということですが、やはりそこから長いやりとりをしていく中で、保護者もいろいろ情報交換をする中で、中根小にこのまま存続していくということがどうも難しいということが皆さん把握をしてきていただいているようだということです。保護者の意見としては、ただこれまでのような定位置を持たずにさまよっているようなイメージ、いつも来年はどうなるのか、再来年はどうなるのかという状態で不安がある状態は厳しいので、やはり長い目で見て安心して預けられる場所を得ることがやはり大事だという形の気持ちに切りかわってきたということだそうです。ですので、次位置決めをした場合にはそこがだめになったら次へというようなことにならないような、どっしりとした場所をお願いしたいというご意見でした。

その下、鹿股委員、こちらは第二幼稚園のPTAから出ている委員になります。率直にひたち野うしく小に隣接したタキイ種苗牛久農場の土地で場所はよいと思うというご意見をいただきました。ただ、やはりこれも美尾委員と同じなのですが、その中学校の予定地を一部利用することで、仮に中学校がいっぱいとなったときにまたそこにいられなくなるというようなことが生じては困るというようなことだそうです。それともう一つ、岡田小の古い園舎についてはそのままにして置かずに対策をとってほしいということでご意見として加わりました。

その下、新井副会長、学識経験者で茨城大学の教授でございます。新井副会長のほうからは、やはり幼小中の一貫教育をするということを市のほうで打ち立てていただければ、先ほどの鹿股委員の意見についての意見なのですが、たとえば中学校の人数が大きくなってきても、その幼小中一貫教育という中で幼稚園のその位置というのは安泰になるのではないかとこのことだそうです。特に、幼小中が公立として存在しているというのは意外と珍しいケースであり、やはり集められるのであれば先駆的な実践をするモデル地域として幼小中連携を図る一つのエリアを牛久市としてつくるという指針を出してもらって、そこに集めるメリットがあるのではないかとこのご意見でした。

その下、馬場委員についてはのぞみ園のほうから出ている委員で

	<p>すが、こちらは保護者による通園という観点からなのですが、やはり自力の通園では通いたいに通えないという交通弱者というご家庭の問題があるということで、やはりかっぱ号のルートが近くにあるとか、ひたち野うしく駅が近くにある、ひたち野小についてこれに当てはまることだと思うのですが、そういうことだとやはり駅周辺のほうが電車に乗ってきて徒歩で幼稚園に通うということももしかしたら可能になるのでよいかというご意見でございます。</p> <p>そのページの一番下、椎名委員、こちらは私立幼稚園の代表でございます。やはり新たに土地を購入して建てるということは現実的な話ではないので、割と広目の土地を購入したということであれば長く腰を据えて教育ができるかと思うし、ひたち野は場所的にも整備されたところなので、使い勝手もよいかと思うということのご意見をいただきました。</p> <p>以上、5人の委員からのご意見をご紹介させていただきました。以上のあたりをご参考に第一幼稚園の位置についてご議論いただければと思います。</p>
教育長	<p>前回の臨時の教育委員会でもこの議論をある程度してご意見いただいたところではありますが、後藤委員のほうで前回欠席しておりましたので、ご意見がありましたら後ほどお願いします。</p>
後藤委員	<p>新しい中学校の敷地内ということ、その臨時の会議では結論づけられたのですか。</p>
教育長	<p>そういう意見があったというだけで、結論は今日つけましょうということで、今日まで延ばしている状況です。</p>
後藤委員	<p>先ほど、新井副会長のご発言の中に幼小中の一貫教育をするという前提であれば問題ないのではないかとありましたけれども、そういう形で新しい中学校敷地内に幼稚園をつくるという大義名分ですか。</p>
教育長	<p>牛久は特に幼児教育に県内で先進的に取り組んでいる市町村でありまして、その幼児教育をアドバイスしていただいているのがこの新井先生であります。幼保小の連携、小中の連携というのがある種の教育の特色であるので、そういった意味では幼小中セットがいいのではないかとというようなご意見をいただきました。</p>

後藤委員	<p>そういう形におさめるのが一番説得力はあるのでしょうか。この場合に、奥野地区と同じような小中連携でよいのでしょうか。公立で幼小中連携と打ち出したときに、いろんなグレードもあると思うのです。制度的に何かこうかちっとしたものでやるのか、理念としてそういうスローガンを掲げていくのかとか、いろんなグレードがあると思うのです。制度としていくとなると、相当いろんなことが難しい部分もあったりするのではないかというふうに想像します。</p>
教育長	<p>後藤委員のおっしゃることは、奥野キャンパスレベルではなくて、もっとしっかりと、仮にひたち野地区とすればひたち野キャンパスのようなものを制度的にきちんと教育委員会として打ち出していく上でつくっていかうというお考えですか。</p>
後藤委員	<p>つくっていくべきなのかどうかをお伺いしたいということです。</p>
教育長	<p>事務局の案はありますか。</p>
教育総務課長	<p>事務局の案は、幼小中連携ということについては特にはないです。</p>
教育長	<p>逆に言うと、私たちも一緒になって教育委員会で新しいひたち野地区のビジョンをつくっていくという形になっていきますでしょうか。</p>
後藤委員	<p>そこはよくよく考えないといけないのかなと思っています。つくばみたいにきちんと小中連携という形をとるのか、そのレベルで幼小中連携というのを考えていく場所とするのか、それともただ単にそういうモデル地区ですというくらいで、ほかの世代の方々を説得できるのかというか。今世代間での利害というのはズレが生じているので、そのいろんな世代にきちんと理解してもらえるような答えを一応整える必要があると思うのです。そうなってくると、その幼小中一貫というのをはつきりときちんとした形で打ち出すとなったときには、それなりの準備も内容も必要になってくるだろうと思います。多分、5年、7年たつてここにいる人は誰もここにはいないかもしれないので、そのときにあのときは当時の関係者がそう思ったのでしょうかというぐらいで、今回通過できるかどうか。</p>

<p>教育長</p>	<p>今うちでもう一つやっていることは、コミュニティースクールという制度を牛久市は進めていこうとしています。ちょうど今民意を代表する市長のお考えのように、その学校を地域づくりの核にしていくという市長の考えがあると思うんです。これは一つの民意の代表の考えだと思うのです。それと、私たちが今目指そうとしているコミュニティースクール、地域を取り込んだ学校づくり、地域の核となる場所としてその学校、その地域をつくっていこうという大まかな狙いは、教育委員会も市長も同じ考えかなと思っているのですが、具体的にそのビジョンを細かくつくっていこうという形になりますと、これからになります。ましてや今佐藤職員もいるように、ひたち野中学校の建設プロジェクトリーダーでありますので、そことセットにしながらか新しいビジョンを建物だけではなく、ソフトも一緒につくっていこうという感じで進めていくようになるかと思うのですが、皆さんご意見ありましたらお願いします。</p>
<p>石井職務代理者</p>	<p>後藤委員のおっしゃることは全く間違いないことだと思うのですが、ただもう一方、もう時間的な制約もあってどこかに建てざるを得ないだろうということがあります。あとそれから幼小中連携のセンター的機能を持たせるという意見については、もう皆さん異論がないということで、位置的なところにおいては、やはりそういった意味も考えますと逆に小中の近くにあることも相当なメリットなのかなと考えます。そういったことも踏まえた上で説明をすれば何とかかなるのかなという甘い考えではないのですが。やはり地域の核とするということにおいてはある程度の集中とすることも一つの意義のあることかなと思っております。そういった意味では中学校敷地内というのは一つの説得力を持つのかなというふうには考えております。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>確かに、幼保小連携でいくのであれば、同じ敷地の中にとというのは理想の形だと思います。ただ、小学生と中学生と幼稚園で体力差とか何か考えた場合に安全面というのが、やっぱり位置的に考慮して建築しなければならない。小学校、中学校、まあ中学だったら部活もありますし、それが幼稚園で遊んでたりとかということというのは、そういう安全面、ボールが飛んできたとか何か事故につながっていくというそういう建て方、位置的なことをやっぱり考慮に入れてやっていかなければいけないと思うのです。それと、やっぱり今コミュニティースクールというのを牛久市全体でやっていくというのであれば、奥野地区では、もうそれは今現実に動いているわけですから、そこを中心にして考えていかなければ牛久市内にばらつきが出てくるのではないかな。統一して小中一貫教育ということをやっていくのであれば、同じ統一したものでいかなければいけないと思います。</p>

教育長	そうしますと、ひたち野地区に一応幼稚園をつくりながら、後藤委員のおっしゃるような牛久として新しい教育の方向性を同時に急いで考えていこうというスタンスでよろしいですか。今の話しですと、31年度にはもうつくるしかないのですよね。
教育総務課長	31年の4月に開園してきたいのです。
教育長	ということは、中学校より先に1年早くつくる。逆に幼稚園が先にできるという感じですね。
教育総務課長	そうです。
教育長	それが、ひたち野の中学校と一緒に同時進行でこれから進んで行くような形になっていくのでしょうか。別個とは言いますが。敷地をどう分けて、どこにどうつくってという話になってくると思うのです。
教育総務課長	はい。敷地の中で一応決めたらば、多少そこについては早目に。
教育長	そうすると、幼稚園をもし新しい敷地につくるとすると、設計とか云々の話は逆算するとどこからスタートしていくような形になりましょうか。
教育総務課長	基本設計の中でまず敷地のその割り振りの的なものを決めます。
教育長	いつごろ決め始めますか。
教育総務課長	中学校の基本設計は今もう始まっております。
教育長	幼稚園の話は。
教育総務課長	敷地の場所的なものは、あそこだとすれば中学校の基本設計を検討する中で、

	<p>一緒にこのあたりかなというのを決めて、そこから具体的には実施設計をやります。</p>
教育長	<p>ということは、今もう決めていくということですよ。幼稚園の位置も。それから設計も、中学校と同時にではないと間に合わないということですね。</p>
教育総務課長	<p>そうですね。</p>
教育長	<p>そうであれば、同時にやっぱり私たちも考えていくというような形でいきましょうか。今、教育振興基本計画について間もなく手をつけようとしているところなのです。教育振興基本計画がこの冬ぐらいからスタートできそうなのでしたか。</p>
飯野次長	<p>今年度中にできるだけもう取りかかっていきたいと思います。来年度の早いうちには完成というところで進めていきたいと思っています。</p>
教育長	<p>ですから教育振興基本計画の中で今、後藤委員のおっしゃるような、これからの牛久の学校づくりをきちんと法的な整備をしていって、その中であそこの新しい土地に幼稚園と中学校をつくりながら教育振興基本計画によって教育の方向を示していこうという、そういった形でいかがでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>それと同時に、幼稚園がセンター機能を果たしていくという部分のところもちゃんと打ち出していないと、並行しないといけないと思うのですが。</p>
教育長	<p>そうですね。そこもこれからソフトの面の検討になっていると思うのですが、一方できぼうの広場というところが教育センターと今位置づけて、教育センターがあそこにもありますので、その辺とも兼ね合いながら、どうセンター機能を位置づけていくかといったことも、早急にソフトの面を整備しながらハードも同時に動いていくという感じになりましょうか。その辺のこと、教育振興基本計画の中にも位置づけていくような形で進めていくということではいかがでしょうか。</p>
教育長	<p>それでは、私たちとしては、一応幼稚園は今度の新しく買ったひたち野うしく小の隣の土地に中学校とともに幼稚園も位置づけていくということで、教育委員会としては一応答えを出すということで進めていきたいと思っていますので、</p>

<p>教育長</p>	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>次に、ICTですが、ICTの整備について事務局より説明をお願いします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>ICTの整備の基本方針ということで、案として出させていただきました。これから予算要求時期に入ってまいります、ICT関係予算については今後非常に大きな金額を要求していくこととなりますが、やはりその中で方針的なものを委員会としてある程度定めた上で、それに沿って複数年、当然単年度では無理ですので、複数年計画で順次入れていくという必要があるのかと考えられます。それに当たって、たたき台としてつくりましたので文書や内容等も含めましてご意見をいただきたいと思います。</p> <p>まず、前提といたしまして国で出しているICT関係の資料なのですが、学校のICT環境を整備しましょうということで委員の皆様にはカラー刷りでお手元のほうにいつていると思います。これは文科省のほうで出しているものなのですが、これの表紙めくってみて3ページ目のところに第2期の教育振興基本計画で目標管理している水準が出されております。これを見ますと、教育用コンピューターが1台当たりに対して児童生徒が3.6人で使うというような形です。加えてコンピューター教室に40台のコンピューター。さらに、各教室に1台、特別教室に6台のコンピューター。そのほかに設置場所を限定しない可動式コンピューター、タブレットのことを指すと思われます。それが40台というのを目標値として挙げております。加えて、電子黒板、実物投影機の整備ということで1学級1台。加えて、超高速インターネット接続率及び無線LAN設備率100%。加えて、校務用コンピューター、教員1人当たり1台。この項目を目標として数値管理しているところでございます。</p> <p>お手元のほうに、このA4版のほうでかなり細かい表なのですが、こちらをおつけしております。これは、茨城県だけの状況ですが、県内市町村が全部並べられた上で今の数値管理、目標管理されている項目が示されております。実はこれが3、4年前から文科省のホームページ上で、エクセルで全国市町村の分が公表されている状況でございます。</p> <p>牛久市のところをご覧くださいますとわかるんですが、まず教育用コンピューター1台当たり、国で3.6人と定めている目標について牛久市においては12.1人ということで44市町村中43位という状況でございます。また、その次の1学校当たりの電子黒板の整備台数0.9台ということで、これはさまざまな形の電子黒板がありますので、これはかなり過去に買った黒板にちよつとペタッと張ってプロジェクターと組み合わせて電子黒板的な使い方をするものが含まれていると聞いております。0.9ということで全市町村中32位という状況でございます。その2つ先で電子黒板の整備率が5.2%、これは数えてみると34番目になります。また、当市の場合高速インターネットについて</p>

は100%ということで、これは割と早くから整備してきた形ではありますが、実は小学校の施設内での配線関係が複雑でちょっと速度について、速度が出るかどうかということが今調査中でございます。というのは整備した年度がかなり早かったものですから、整備率としては上がっているんですが当時の公衆回線の速度は上回っていたのですが、今現在のギガレベルの公衆回線を使って動画を見るという想定をしていないものですから、そのあたりでちょっと、一応率的には100%になっていますが調査が必要だという状況になってきております。

そのあたりを踏まえて、一応整備方針案としてちょっとたたき台をつくらせていただきました。体系といたしましては、やはり2020年度の学習指導要領改訂に向けてということで情報活用能力なりの育成が必要であってプログラミング教育の推進といった背景があるのかなということで、ICT教育についてはやはり学習への興味、関心を高め、わかりやすい授業、また子供たちの主体的・協働的な学びを実現する上で効果的。また、特別な支援が必要な子供たちに対して特にその活用することが有効であるというふうに言われている。これは文科省の白書のほうから拾わせていただきました。そういった必要性が言われるのかなというところで、次に牛久市のICTの現状ですが、先ほど示させていただいたとおりでございます。

中学校においては、各校タブレット端末44台整備しております。それと同時に、パソコン教室のデスクトップ型パソコンは入れかえで撤去しております。小学校におきましては、逆に各校のパソコン教室に40台ありますが、これは6年半を経過して今日ご覧いただいたように入れ替えが必要な状況となっております。タブレット端末のほうが未整備でございます。電子黒板もしくは大型掲示機器ということで文科省のほうでは唱っておりますが、いずれも教室においては未整備という状況でございます。普通教室の無線LANの整備ということでいくと、有線LANのほうは一応整っておりますが、無線LANについては小学校は当然未整備、中学校についてはアクセスポイントとしてルーターを各校6台ずつ配っているという状況でございます。先生の校務用パソコンについては、中学校はタブレットと同時に145台更新をしております。26年から5年リースです。小学校については今約255台ありますが、常に数字は動いております、それで更新が必要、6年半経過しているという状況です。

次のページにいきまして、近隣市町村の整備状況は先ほどの全体のエクセルの表で見させていただいたものの抜粋でございます。国が示すICTの整備目標といたしましては、先ほどのカラー刷りのパンフレットのとおりでございます。その次にいきまして、牛久市における機器の導入目標ということで目標値を仮置きさせていただきました。目標年度としては、一旦は2020年の学習指導要領の改訂を見据えて、その前年度の2019年度までの3年間においてまずは電子黒板だけで率を上げていくのはちょっと難しいと考えまして、大型モニターと組み合わせの中で大型掲示機器ということの整備と、あとタブレットパ

	<p>ソコンの整備、それと各教室の無線LAN環境の整備ということで挙げてみました。</p> <p>小中学校目標といたしまして、小中学校各フロア1台及び特別支援学級については特に電子黒板が有効だというのがありましたので、特別支援学級の各教室には1台の電子黒板の配置という。各教室については、各フロア1台程度を除いた部分については、モニターテレビで当面配置という。加えて、小学校のパソコンの入れかえにあわせて各校に44台ずつタブレットPCを配置。ただし、中根とひたち野についてはその倍づけて88台ずつ配置。普通教室全教室にアクセスポイントの整備ということを目指していきたいという。今中学校はアクセスポイントを持ち歩いて、その都度つけるという方式ですが、やはり目標としては固定型を目指していく。</p> <p>あと、あわせてICTのまず活用として一番活用しやすいパターンといたしまして、デジタル教科書、これについては内容がある程度固定されているものですから、先生方のスキルに左右されることなく使われやすいのかなということで、全教科でデジタル教科書を運用。加えて、教職員で校務用パソコンの入れ替え、これは小学校の部分でございます。これらを目標どおり行った場合に、大体普通教室の25%に電子黒板が配備される。特別支援教室は100%整備。普通教室の75%はモニターテレビでカバーするという。タブレットについては、この数を入れたとしても残念ながら10.5人に1台にしかありません。加えて、無線LAN整備率を100%ということでございます。ただし、その電子黒板については、下に導入計画として一応2019年を目標値としつつも、なかなか3年だけでの経費の割り振りになるとかなり大きな金額になってしまうものですから、5年という期間を考えました。そうした中で、各年度1億円にまでいかない金額の範囲内で何とか抑えるという形で割り振って見たのですが、電子黒板についてはそういうことによって達成は2021年に達成でこの数字というところを一旦書き込みました。それ以降は、(2)番も出しておりますがICTの牛久市の教育現場における活用状況、あとデジタル教科書についてのご紹介でございます。</p> <p>以上、ICT環境整備の基本方針というところで、あくまでもたたき台として問題提起させていただきましたので御協議のほどよろしく願いいたします。</p> <p>今説明がありまして、3ページに牛久市のこれからのICTの導入計画ということで示されたわけですが、委員の皆様方ご意見ありますでしょうか。</p> <p>先ほども小学校のほうで拝見をさせていただきましたけれども、もちろん更新時期に入っていることもありますし、指導要領の改訂になってこれについてはやはり対応せざるを得ないような状況があるということを、やはりしつ</p>
教育長	
石井職務代理者	

五十嵐委員	<p>かりと踏まえた上で、お金がかかるという判断については確かに間違いないことなんですけれども、整備を図っていくべきだというふうに私は考えています。</p> <p>先ほど牛久小の40台のうち、大体4台ぐらいが使用不可という紙が張ってあって1割が使えない状況だということをお話しされて、これはお金のかかることなんですけれども、この5カ年計画でというよりは、もうちょっと3年ぐらいに縮めたら大変ですか。</p>
教育総務課長	<p>そういう方向づけをいただければ、そういう要求もしていく必要があるのかなとは思いますが。</p>
五十嵐委員	<p>早いほうがいいと思うのですけれども。できるのであればお願いしたいと思います。</p>
後藤委員	<p>これが必要だということはもう周知のことで、問題は今それが実現できるかどうかということだと思います。実現できるように努力をしないと意味がないと思います。我々ミレニアムプロジェクト、あの2000年のときに全学校にパソコンを入れるという国の計画にみんな従ったのですけれども、その後、OSはどんどん進化していきパソコンを使える先生は全然いなくて結局ごみになってしまったみたいな、苦い経験を日本全国したわけです。お金をかける以上我々の教育目標にやはり資する形でこれを活用しなければいけないと思っています。例えば、今日訪問した学校にもパソコンがお得意な先生がいらっしゃいましたが、例えば市教研で視聴覚部会ではなくて、先進教育部会みたいなものを立ち上げて、各学校一人、二人、個人的にとてもこういうことに長けている方々いらっしゃるでしょうから、そういう方にどうやったら本当に活用できるのかということ具体的に、市のあちこちの学校を回ってきちんと研修できるように形を整えて、次の学習指導要領でプログラミングが必修で入ってきますので、そうするとこれプログラミングという話になったときにやっぱりタブレットが必要なのです。私もその昔のプログラミングのイメージしかなかったので、C言語みたいなものを小学生にやらせて意味があるのかなと思っていましたが、ことし日本色彩教育研究会というのがやっているのですけれども、そこで図工教育をタブレットを使ってプログラミングをするというNTTの団体を呼んで研修をやったのです。そこで初めて私自身もプログラミングの意味を知りましたが、あれ考えるとやっぱりそういう教育の方法に対処していない市町村ってやっぱり若いお父さん、お母さん方は魅力を感じてくれないはずですし、</p>

	<p>それから子供たちの日常を考えたときには、やっぱりこれから生きていくことを考えたとしてもここは2000年のときとはちょっとレベルの違う、内容の違う話だと思っていて、やっぱりこれ対処せざるを得ないんだと思うんです。それをどうやって認めてもらって予算化してもらえるのかという、まず一つはそのせっかく人口が増えてきた町で、もっと子育ての魅力ある町にしていくためには避けて通れない問題だということをしちゃんと理解していただくという問題と、それからこれによって学力が向上するのだからということを示さないと多分、学力向上というのは一つのここでの目標でもあるのでそれを市教研のほうで新しいまた部会のようなものを立ち上げていただいて、なるほどこれを使うことで学力も伸びる、学校にも来るようになるというようなそんな姿をつくっていく必要があるのだらうなと思います。ちょっと長くなりましたけれども、これはもう絶対認めてもらうよう頑張るしかないという気がします。</p>
<p>教育長</p>	<p>今日現場を回っていても、現場からも非常にコンピューターの強い要望があります。私も先日、DeNAの会長さんの講演会聞いてきまして、これからコンピューターを使うプログラムを打つ人になるのか、コンピューターに使われる人になるのかというような話がありまして、DeNAの会長さんは佐賀県武雄市と一緒にプログラミング教育を進めているというような話もありまして、非常に必要だというのは実感しております。各委員の意見を聞きましても、3ページにあるような導入計画は問題ないと思うのですが、これを早くやるかこの計画どおりやるかというのもまた予算付けのところと難しい話になってくるかと思うのですが、なかなかこれをこの場では結論出しづらいですか。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>あと、これを使いこなせる職員が必要だと思います。さっき学校訪問のときに出ましたけれども。</p>
<p>教育長</p>	<p>ですから、先ほどの中学校建設も一緒ですが、ハードとソフトを同時に進めるということです。これも導入プラスソフトを使える人材を育てるという、同時にやっぱりやらないといけないと思います。なので、教育総務課と指導課の非常に連携が大事になってくる部分かと思しますので、その辺も一緒に進めながら我々の意見としては、導入は早急にといいところでは変わらないかと思うのです。</p> <p>教育委員会が指導して研修を進めるという、そして導入も進めていくということで、両輪で進めていければと思っております。事務局の案で一応進めていくような形でよろしいでしょうか、それとも五十嵐委員が言ったようにもっと早めたほうがよろしいのでしょうか。今日の議案にもありますように、プール、</p>

	<p>第一幼稚園、ICTと本当にお金のかかることがあるものですから難しいところもあると思いますが、ただこれも予算を立てなくてはならないものがあるわけです。なので、一応事務局案を了承するような形で進めるということでしょうか。賛成の方は挙手でお願いします。</p> <p>全員挙手で賛成し同意を得る。</p>
教育長	<p>皆さんの同意を得ました。</p> <p>先ほどの第一幼稚園の件も一応全員同意を得たということで進めていきたいと思えます。よろしくをお願いします。</p>
教育長	<p>それでは、最後に委員の方々に今回から予算について、各課でこんな予算を使ってこんなことをやっていますというのを簡単にご報告したいと思っております。各課から報告をお願いします。</p> <p>予定価格130万円以上の工事計画</p> <p>教育総務課</p> <p>平成28年度下根中学校仮設校舎建設工事 設計額 138,294,000円</p> <p>平成28年度下根中学校仮設校舎電気設備工事 設計額 26,589,600円</p> <p>平成28年度下根中学校仮設校舎機械設備工事 設計額 16,718,400円</p> <p>平成28年度下根中学校仮設校舎建築工事構造監理委託 設計額 1,263,600円</p> <p>平成28年度牛久第一中学校体育館改築実施業務委託 設計額 14,353,200円</p> <p>平成28年度ひたち野うしく中学校基本設計業務委託 契約額 33,350,400円</p> <p>平成28年度牛久南中学校校舎大規模改造工事設計業務委託 設計額 18,133,200円</p> <p>平成28年度小学校プール濾過設備改修工事 概算見積額 5,195,988円</p> <p>平成28年度定期報告指摘事項改修工事（小学校4校） 概算設計額 5,000,000円</p> <p>平成28年度定期報告指摘事項改修工事（中学校4校） 概算設計額 5,000,000円</p>

<p>教育長</p>	<p>平成28年度小学校幼稚園遊具改修工事 概算設計額 3,125,000円</p> <p>平成28年度防火シャッター既存不適格改修工事 概算設計額 4,109,000円</p> <p>放課後対策課</p> <p>平成28年度中根小児童クラブ建築工事 予定価格 72,079,200円</p> <p>平成28年度中根小児童クラブ電気設備工事 予定価格 7,257,600円</p> <p>平成28年度中根小児童クラブ機械設備工事 予定価格 10,605,600円</p> <p>生涯学習推進室</p> <p>文化ホール舞台照明設備修繕工事 設計額 3,996,000円</p> <p>スポーツ推進課</p> <p>牛久運動公園野球場ダッグアウトラバータイル敷設工事 設計額 1,620,000円</p> <p>平成28年度牛久運動公園武道館新築工事実施設計業務委託 予定価格 31,940,000円</p> <p>中央図書館</p> <p>中央図書館防犯カメラ整備工事 設計額 7,920,000円</p> <p>予定価格100万円以上の教育財産の取得 教育総務課</p> <p>平成28年度小学校防犯カメラ更新 予定価格 5,007,960円</p> <p>生涯学習推進室</p> <p>平成29年牛久市成人式記念品購入 予定価格 1,080,000円</p> <p>以上で、本日の議事は終了いたしました。 続いて、各課の報告がありましたらお願いします。</p>
------------	--

飯野次長

今日は協議事項の中でお金がたくさんかかるものについて協議をしていただいたわけでありまして。ちょうど今、来年度予算編成の最終版ということで今週金曜日がまず第1回目の提出期限となっております。先ほど、工事の予定の中に設計業務委託が幾つか入っていたと思いますが、設計業務で1千数百万円だ、3,000万円だというお話があったと思いますが、実際この後に本体工事は億単位で出てまいります。現在のところ、先ほどもちょっとお話しありましたように国の経済対策ということで既に内定をいただいている部分で工事費が約11億円ございます。これは今年度予算に12月補正で計上するというものです。来年度以降さまざまな事業があります。教育総務課のほうで試算した中では学校教育、教育総務課所管だけで今後5年間で新しい中学校含めると100億の予算が必要になる。そのほか、今武道館のお話しも出ましたが国体等のために必要な整備、スポーツ推進課、それから文化施設ということで生涯学習センター等の改修が相当な金額に上るということで、今の中では非常にお金がつかない。先ほど出ましたICTについても約5億近いお金がかかるという中で、非常に予算の確保が厳しいのが現実でございます。何とか少しでも予定どおりの執行というか、計画を進めていければというふうに考えておりますので、教育委員の皆様にもぜひその点ご理解をいただきまして、事あるごとに市長部局に対しての働きかけをしていただければというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

文化芸術課	牛久藩主とその時代について ワイン祭りについて 第22回うしく現代美術展について
生涯学習推進室	第40回牛久市民文化祭について 第3回牛久郷土かるた大会について
指導課	教育委員施設訪問について
教育総務課	仮称ひたち野うしく中学校の進行状況について
中央図書館	中央図書館空調設備改修工事終了について

教育長

以上で10月の定例会を終了いたします。次回の定例会は、11月21日市役所本庁舎3階第3会議室、午後2時での開催となります。よろしくお願いいたします。